

お金はどこから生まれたか？



日銀の印刷機で刷って出来ています。



あなた（国民）の手元にあるお金は、
誰かが日銀からかつて借りて、
あなたに手渡されたものです。



誰が借りた？



私（国）です。



国の借金？

返さなきゃならないのでは？



返済する必要を感じますか？
全額返したらどうなるか知っていますか？

↓

では思考実験してみましよう。
私（国）とあなた（国民）が
それぞれ100円ずつ持っていると仮定します。
つまり総額200円、日銀から借りたものです。

↓

はい。

↓

あなたに私が予算で100円、歳出します。
あなたの資産は200円になります。
あなたには税金として102円納税してもらって、
そこから2円を日銀に返します。
これが「国の財政健全化」です。
私が予算に使えるのは100円あります。
あなたの資産は幾らありますか？

↓

98円です

↓

次年度同様にあなたに予算で100円、歳出します。
あなたの資産は198円です。
あなたに102円納税してもらって、
2円を日銀に返済します。
これが「国の財政健全化」です。
これを50回繰り返したらあなたの資産は幾らですか？

↓

空っぽ（ゼロ）です。

↓

でも「国の財政健全化」のため、
私（国）の借金の残り100円を日銀に返済するために、
あなたに歳出として予算100円を渡して、
あなた（国民）に102円の納税をしてもらわなければなりません。
あなたは納税できますか？

↓

出来ません（涙目）

↓

破産しましたね。
これが「国の財政健全化」の正体です。
でも私（国）は日銀から「国債」で3円借りて
債務2円と利息1円計3円を日銀に返せます。
（日銀から借りなくても大阪造幣局で硬貨も作れます。）
私（国）は「財政破綻しない」のです。
財政健全化で貧乏になり苦しむのはあなた（国民）なのです。
それでも「財政健全化」は必要ですか？

↓

（無言）

↓

国の会計（公会計）は「お金が必要なら刷れば良い」ので「財政健全化」など必要で無いし「健全化してはいけない」ものなのです。世の中から大切な「資産（あなたのお金）」が消えてしまいます。「自分でお金を刷る権利が無いあなた（国民）」の会計とはそもそも大きく違う仕組みなのです。



結論

「税制で財政健全化を目指す」と「国民の資産が消えてしまう」ので、
自国通貨（円とかドル、人民元など）を発行できる「国」は

決して財政健全化をしてはいけません。

国は「国債」で日銀から借りてあなたにお金を調達することが出来るし、
あなたにお金を渡すことを通じて景気を上向きに出来るのです。

「税金」というのは「財源」ではなく、過剰になった経済を冷ますための
調整機能（ビルトインスタビライザー）に過ぎません。

国家財政においては「赤い字」はまさに「赤い血」、血液なのです。
適度な金額を常に日銀から国債で調達して必要量を保つ必要があるのです。